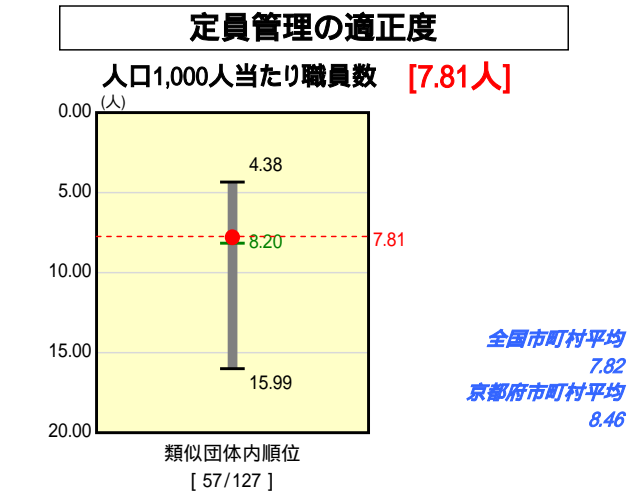
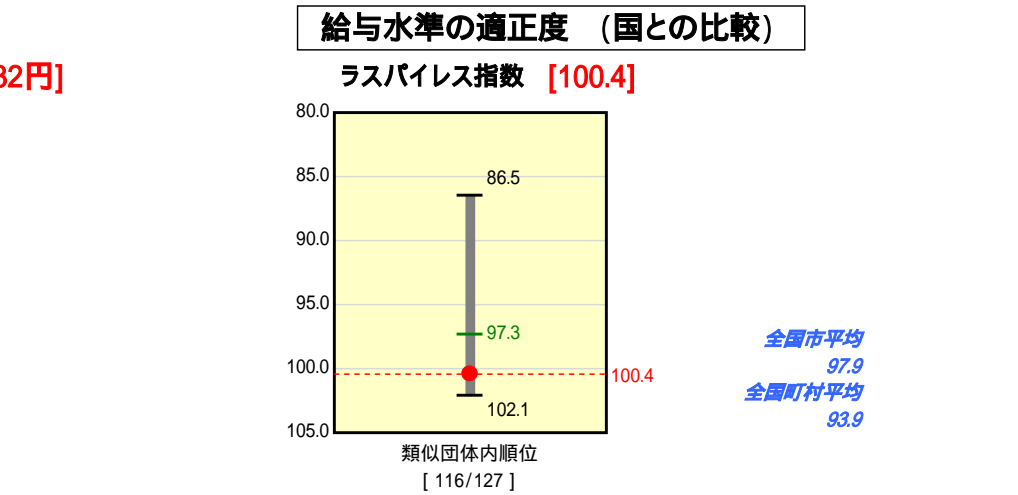
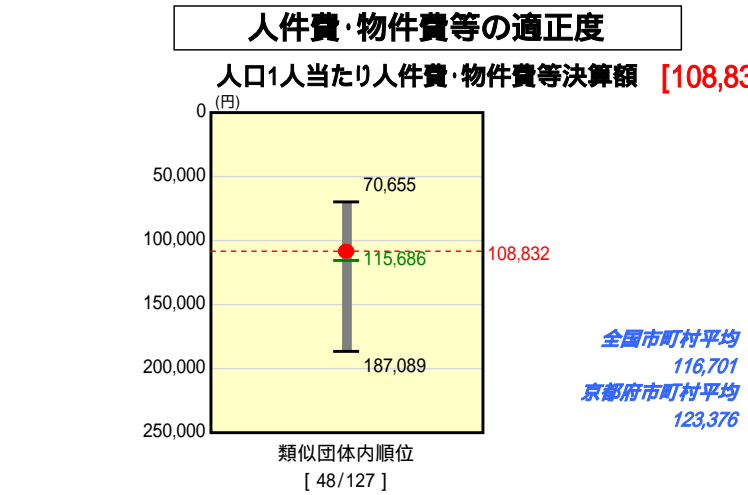
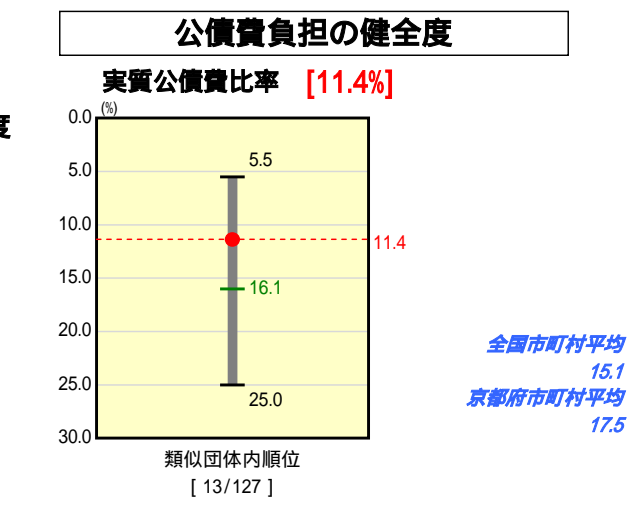
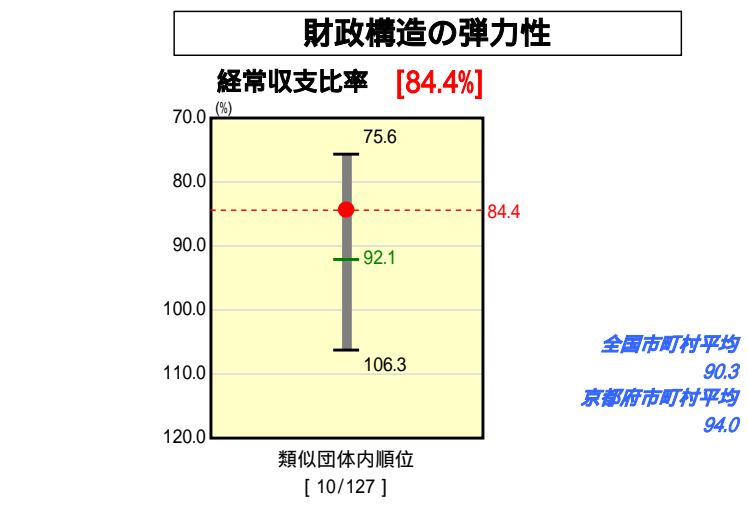
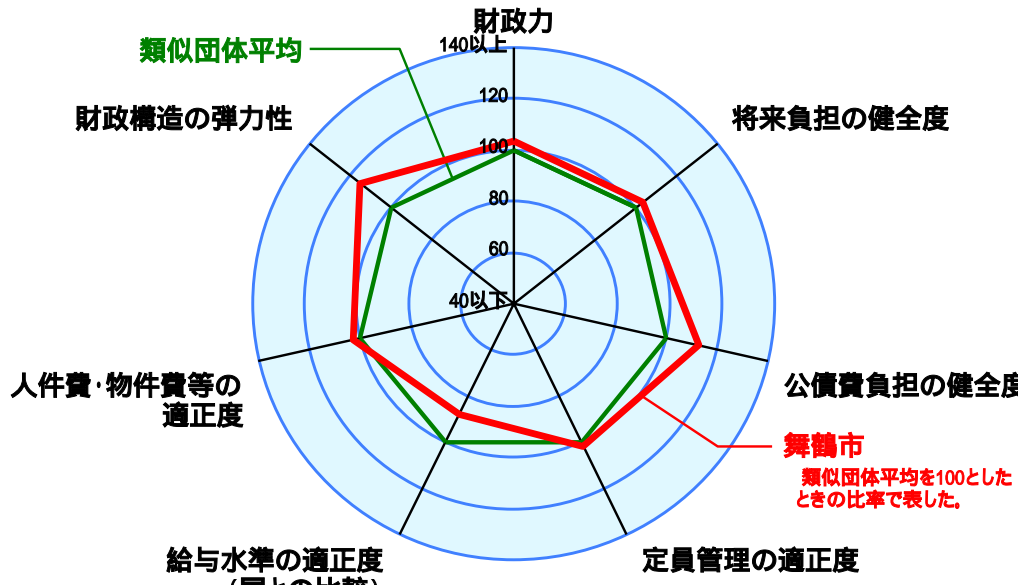
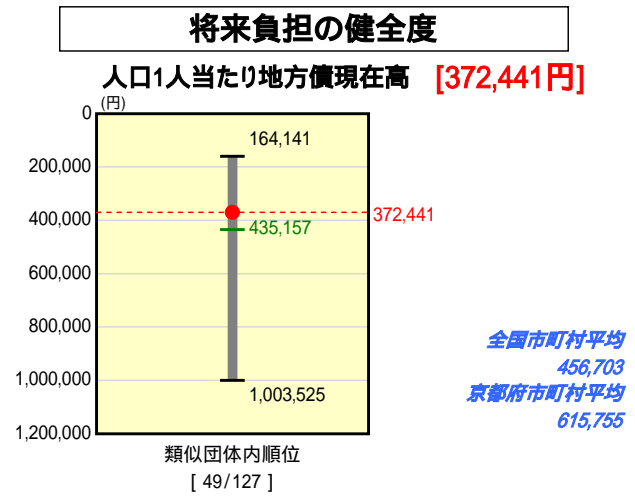
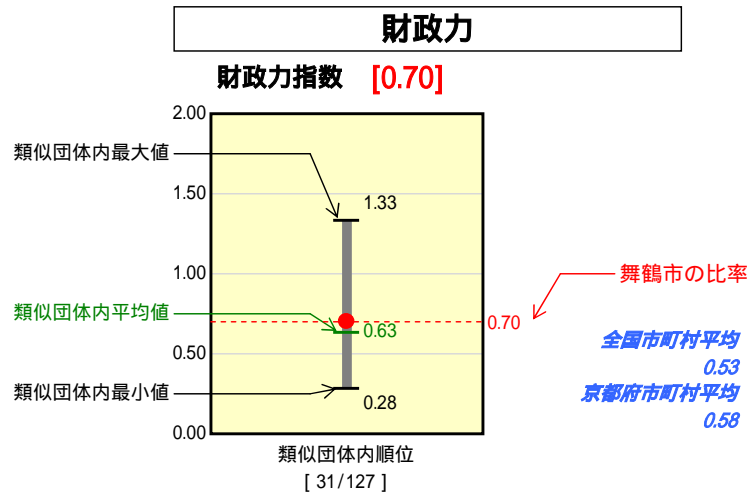


# 市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

## 京都府 舞鶴市

人口	91,252人	(H19.3.31現在)
面積	342.15	km <sup>2</sup>
歳入総額	34,490,446	千円
歳出総額	33,972,476	千円
実質収支	375,284	千円



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

### 分析欄

**【財政力（財政力指数）】**  
平成16年度に舞鶴発電所が稼動したこと等によって市税収入が大幅に増加し、類似団体平均を上回る結果となっている。また、財政力指数は過去3ヵ年平均により算出するため、平成19年度では指数がさらに0.07ポイント上昇する。

**【財政構造の弾力性（経常収支比率）】**  
従来から類似団体平均を下回る水準にある。歳入の経常一般財源等はほぼ前年度水準並みを確保できたものの、社会保障費関連の扶助費をはじめ、義務的経費である公債費が増加したため、昨年度より1.6ポイント上昇している。今後も本市総合計画の目標値である85%未満を維持できるよう、歳入確保を図るとともに、事業精査による経常経費の抑制に努める。

**【公債費負担の健全度（実質公債費比率）】及び【将来負担の健全度（人口1人当たり地方債現在高）】**  
従来から、交付税措置のある地方債を優先的に活用するとともに、発行総額を抑制してきたため、類似団体平均を下回る水準となっている。今後も建設事業の執行にあたっては、安易に地方債に頼ることなく、引き続き厳しい精査・選択に努める。

**【給与水準の適正度（ラスパイレス指数）】**  
類似団体平均を若干超えているが、従来から国家公務員に準拠した給与体系を堅持し、常に総点検・見直しを図ってきたところであり、平成20年4月からは給与構造の改革に取り組むこととしている。今後とも給与水準の適正化に努める。

**【定員管理の適正度（人口1,000人当たり職員数）】**  
複眼都市という特殊性もある中で、定員の適正化に努めてきた結果、類似団体平均を下回る水準にある。今後も継続して集中改革プラン及び総務省の第8次定員モデルの指標に基づき、組織改革や事務事業の見直し等を総合的に推進し、適正な定員管理に努める。

**【人件費・物件費等の適正度（人口1人当たり人件費・物件費等決算額）】**  
類似団体平均を下回っているが、一般事務経費や施設の管理経費を毎年精査し、効率化や簡素化による経費の抑制・節減に取り組んできたことによるものである。今後もさらに事務事業の整理・見直しを行い、人件費や物件費などの抑制に努める。